あなたも「見える化」に取り組んでみませんか？

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」が始まっています。
生産者・小売事業者の皆さん、消費者に分かりやすいラベルを通じて、温室効果ガス削減や生物多様性保全の努力を伝える、「見える化」にぜひ取り組んでみませんか。

みどりの食料システム戦略

○環境負荷低減の取組の「見える化」とは

化学農薬・化学肥料や化石燃料の使用低減、バイオ炭の施用など、農業者等の栽培情報を用いて温室効果ガス削減や生物多様性保全の努力を評価し、貢献度に応じて星の数で分かりやすく表示します。

温室効果ガス削減の取組

・化学農薬、化学肥料の低減
・化石燃料の削減
・堆肥やバイオ炭の施用　等

削減貢献率 5 %以上:★
〃　10%以上:★★
〃　20%以上:★★★

➢ 地域の慣行的な栽培と比較した温室効果ガス排出量の削減貢献率を算定し、等級を確定

生物多様性保全の取組

・化学農薬、化学肥料の低減
・冬期湛水
・魚の保護　等

取組の得点1点　:★
〃　2点　:★★
〃　3点以上:★★★

➢ 温室効果ガス削減に加え、生物多様性の保全の取組の得点に応じて評価し、等級を確定

※生物多様性保全の評価は、米に限る

○見える化の流れ

算定シート入手 → 栽培データ等の入力 → 農林水産省への報告 → ラベル表示

まずはホームページからご登録下さい。

お持ちの生産記録で簡単に算定できます。

算定結果をご報告下さい。登録番号を付与します。

商品やチラシなどにぜひラベル表示して下さい。

○対象品目

栽培方法	対象品目
露地栽培のみ	米、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、日本なし、もも、茶
施設栽培のみ	ミニトマト、イチゴ
両栽培方法ともに対象	トマト、キュウリ、ナス、温州みかん、ぶどう

～令和6年3月の本格運用開始以降、全国の多様な店舗等で表示～

お問合せ先　農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ（Email: midori_mieruka@maff.go.jp）
または、お近くの地方農政局や県拠点までお問合せください。